



～みんなかがやく 富田っ子～

富田っ子だより 第13号

富田小学校 学校通信
令和3年11月26日(金)



6年修学旅行 ～最高に楽しい思い出となった2日間～



【MieMu 三重県総合博物館】



【志摩スペイン村】

11月10日(水)から1泊2日で伊勢志摩方面へ修学旅行に出かけました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴い、県内の修学旅行となりました。幸いにも両日とも天候に恵まれ、絶好の旅行日和となりました。

1日目は、まずMieMu 三重県総合博物館に立ち寄り、三重県の自然・歴史・文化に触れました。鈴鹿山脈や伊勢湾の自然など、「日本の縮図」ともいえる三重の多様で豊かな自然について学んだり、三重の地が東西の文化の結節点として古来から人・モノ・文化の交流が盛んなところであったことなどを知ったりすることができました。また、「ミエゾウ」の骨格や「富田の鯨船祭り」のパネル展示を見て、子どもたちが大変驚いていたのがとても印象的でした。

その後、二見に移動し、昼食後はシーパラダイスへ。いろいろな動物に触れたり、ゴマアザラシと一緒に写真を撮ったり、イルカとキャッチボールをしたりして楽しい時間を過ごしました。

最後は子どもたちが楽しみにしていた志摩スペイン村へ。2時間ほど班別で活動し、キャラクターと写真を撮ったり、乗り物に乗ったりしながら友達と楽しい時間を過ごしました。

旅館ではおいしい料理が子どもたちを出迎えてくれました。友達と一緒に食べたり、お風呂に入ったり、いろいろな話をして楽しい一夜を過ごしました。

2日目は、志摩を後にして、鳥羽の「海の博物館」の見学です。ここでは、海女や漁、木造船、海の祭りなど、海と関連するものについて見学し、貝殻を使った「マグネットづくり」に挑戦しました。どの子も上手に自分のマグネットを作り上げました。思い出に残るお土産になったと思います。

お昼は伊勢名物の「手こね寿司」と「伊勢うどん」をいただき、その後伊勢神宮を訪れました。最後は、おはらい町・おかげ横丁で楽しみのお買い物タイム。子どもたちは事前に伊勢のお土産について調べていて、当日は班の友達とお目当てのお土産を探す姿が見られました。

旅行先が県内に変更となりましたが、子どもたちにとっては郷土の三重の自然や歴史・文化に触れ、改めて三重を知る「発見」の旅になったと思います。また、子どもたちはどの地でもきまりや時間をよく守り、友達と協力して思い出に残るすてきな修学旅行となりました。

今年度も感染症防止対策が求められる修学旅行でありましたが、旅行会社をはじめ、バス、旅館、食事場所等で細やかな対応をしていただき、無事に2日間を過ごすことができました。出発前は感染症についていささか心配もありましたが、無事に修学旅行が終えられ安堵しています。

保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。



【シーパラダイス】



【宿泊地「鯨望荘」】



【海の博物館】



【伊勢神宮】

<子どもたちの感想(抜粋)>

- ・一番心に残ったのは海の博物館で、ぼくたちが汚したりしている海を漁師さんだけがルールを守って海の生き物を守ってくれていることから水について考え直そうと思った。
- ・1日目も2日目も楽しく学ぶことができたし、班でまとまって行動できたので最高の思い出を作ることができた。三重の良さを再発見できたのでそれを守っていききたいと思った。まだ知らない三重の良さをこれから知っていきたい。
- ・とっても楽しくてみんなで学ぶことの大切さをあらためて知らせてくれる時間だった。私が何より感じたことは、“みんな”がいることの幸せや大切さをあらためて感じたことだった。

本を読む楽しさをこれからも ～家族読書のご協力ありがとうございました～



本校では、読書習慣を身に付けるとともに、本を読む楽しさを通して心の教育の充実を図ることを目的に、各学期に校内読書週間に取り組んでいます。今回は、11月1日（月）から12日（金）の2週間を第2回校内読書週間とし、朝の読書や図書委員会が行う「読書マラソン」、「家族読書」などに取り組みました。

読書は、語彙数が増えるとともに、心を豊かにしてくれると言われています。本校でも、そうした力を子どもたちにつけていくことが、激動の時代を生き抜いていく子どもたちの生きる力の基盤をつくることにつながり、子どもたちの人生を豊かにしてくれるものと考えています。

そこで本校では、年間を通じて、どの子も図書室から一人2冊の本を借り、1冊は学級用専用ケースに、またもう1冊は図書バッグに入れていつでも本が読めるようにしています。また、毎学期取り組む「読書週間」や「家族読書」、図書館の利用や100冊ほどある学級文庫の充実など、本に触れられる環境をつくっています。

また、月に1、2回、図書ボランティア「ももたろうの会」の皆さんに來校いただき、朝学習の時間に「読み聞かせ」をしていただいています。新型コロナ感染防止のために一時期中止をしていましたが、感染拡大が見られない状況になり11月から活動を再開していただいています。

今回も校内読書週間の5日間、家族読書に取り組んでいただきました。子どもたちにとってはお家の人と読書に触れる絶好の機会と考えています。読書を通じた家族とのかかわりの中で、お子様の成長を感じられたのではないかと思いますし、子ども自身が感じたことも多かったと思います。以下に、「家族読書の記録カード」から感想を紹介します。

○子ども ◆保護者

- 読書週間で小説など今まで読む数が少なかった本などを読めてうれしかったです。
- ◆今回はいつもよりチャレンジしていた様で、集中して読書ができていた様に思います。
- 今回は、SDGsの本を読みました。面白かったです。11月3日に読んだ本「こどもSDGs☆なぜSDGsが必要なのかわかる本☆」がよかったです。家族といっしょに読書ができてよかったです。
- ◆一冊の本を親子で一緒に読むということは意外と普段できていなかったもので、とてもよい機会でした。
- どの本もとてもおもしろいし楽しくなれるようないい本でした。
- ◆最近、積極的に読書に取り組んでいる姿が見られ感心しています。これからも毎日、自分のペースで続けてもらいたい。

校内図工作品展 ～どの子も力いっぱい作品づくりに取り組みました～

今年度は、11月2日（火）から3日間の日程で校内図工作品展を行いました。10月に入ってからどの学年も図工の時間を使って作品づくりに取り組みました。どの子も想像力を働かせて自分の作品を作りました。



<1年>絵画「キラキラしたさかなたち」



<2年>紙粘土「おにのおめん」



<3年>絵画「もりのへなそうる」



<4年>工作「コロコロガ〜レ」



<5年>絵画～名画に挑戦～
「ゴッホの筆使いにせまろう」



<6年>陶芸
「身近におきたいもの・使いたいもの」